

1. 内容項目 A-1 主として自分自身に関すること 善悪の判断、自律、自由と責任

2. 主題名 「勇気を出して」

3. 教材名 「ダメ」 出典「新訂 あたらしいどうとく」(東京書籍)

4. 主題設定の理由

「勇気を出す」という短い言葉は、時に、他者に向けて「勇気を出して頑張る」と安易に使われることもある。しかし、勇気を出して何かをするためには、自分が苦手だ、嫌だ、怖いと感じるものから逃げずに向き合い、内省する必要がある。もともと負の感情を抱いていることに対して意識を向けるだけでも大変なことであるのに、そこから「どう行動すべきか」を自律的に判断し、実際に行動に移すというのは心理的にもとても負荷のかかることである。また、その判断が自分勝手な我儘なものであった場合、「勇気を出す」という言葉には値せず、自分本位に感情を相手にぶつけているだけに過ぎないだろう。

このようにして考えてみると、「勇気を出す」ということはとても難しいことのように感じる。だからこそ、どう行動すべきかを自分で決め、勇気を出して行動することができたという経験は、人に達成感を味わわせ、自己の高まりをも感じさせるのではないだろうか。そして、そのような勇気ある行動は、時にはそれを目の当たりにした周りの人にも影響を与えるのではないかと考える。

内容項目 A-1 の第1学年及び第2学年では「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」とある。価値観の多様な社会の中では、状況により善悪をはっきりと区別することが難しい問題がたくさんあり、人によって解釈が分かれることも多い。そのような社会の中では、考えをまとめ自分の中で正しいと信じることを定めていく力が必要だろう。1年生という発達段階を考えると、それはとても難しいことだが、単純に物事の上部だけを見るのではなく、低学年の児童なりに自律的にどう行動するのがよいか考えさせる経験を積むことが大切であると考え。そうして考え、自分で決めたことに対し勇気を出して行動に移せたという経験は、低学年の児童に、自分にもできたという清々しい気持ちを味わわせ、次もやってみたいという意欲につながるのではないかと考える。

5. 教材について

本教材の「りすくん」は、身体や声が大きい「くまくん」に言い返せば、何かされるかもしれないという思いから、不本意ながら「くまくん」に様々なものを譲ってきた。都合よく「取られていた」事実を「ゆずってあげていた」と表現する部分に「りすくん」の「嫌だ…でも言えない。」という自分の弱さを認めたくない心の葛藤を感じる。大好きなプリンを食べられたことをきっかけに、「りすくん」が自分自身の本当の気持ちと向き合い、「勇気を出して」真剣に自分の気持ちを伝えたことで、「りすくん自身」も「りすくんとくまくんとの関係」も変化する。「りすくん」が、どのような気持ちで自分の弱さと向き合い、なぜ勇気を出すことができたのかを話し合っていくことで、本時のねらいに迫りたい。

6. 本時の展開

(1) ねらい

- ・自分自身に向き合い、勇気を出して、よいと思ったことをするよさに気づく。
- ・そのような行動は自分自身をよりよく高めることができるということに気づく。
- ・よいと思ったことは恐れず、勇気をもって行うことができるようになりたいという気持ちを高める。

(2) 本時

主な学習活動と児童の反応	指導の方法
<p>○「勇気のある人」とはどんな人か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強い人 ・悪者を倒せる ・心が強い ・戦いに勝てる人 ・人に優しい ・弱い人を守る <p>○資料を読んで考える。</p>	<p>・子ども達は「勇気のある人」というと、自分とはかけ離れた特別なヒーローのような存在を思い浮かべると考える。導入ではそれを認めながら、他人事から自分事として捉えることができるようにする。</p>
<p>発問1 初め、りすくんはなぜ「ダメ」と言えなかったのでしょうか。</p>	
<p>① 【引き出したい児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖いから ・身体も声も大きいから ・突き飛ばされるかも ・泣かされるかもしれない ・どなられるかもしれない ・また何かとられるかも ・強そうだから(⇔自分は弱いから) <p>② 【引き出したい児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くやしい ・嫌だ(本当は嫌だった) ・嫌だけど我慢してきた ・勇気がない ・弱い 	<p>・表面的な「プリンを食べられて悔しかったから、勇気を出して嫌だったと伝えることができた。」というところに留まることなく、りすくんを突き動かした心の底にあるものについて考えさせていく。</p> <p>【問い返し例】</p> <p>① りすくんは大好きなプリンや他のものを譲ってきてどんな気持ちでしたか。</p> <p>② この時のりすくんは「勇気がある人」ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆずってあげていた」という、りすくんの言葉の裏にある本当の気持ちに気づかせていく。
<p>発問2(中心発問) りすくんは、なぜ「ダメ」といえるようになったのでしょうか。</p>	
<p>① 【引き出したい児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままじゃダメだと思ったから。 ・もう何もとられたくないから。 <p>② 【引き出したい児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ダメ」といえる自分 ・強い自分(心が) ・嫌なことを嫌と言える自分 ・勇気が出せる自分 ・自分の気持ちを伝えられる自分 ・怖い気持ちに負けない自分 	<p>【問い返し例】</p> <p>① 勇気がなくて、我慢して、譲ってばかりの自分のことをりすくんはどう思っているのでしょうか？ 本当は、りすくんはどんな自分になりたいのでしょうか？</p> <p>② りすくんの「ダメ」は、自分勝手な我儘や相手を強く注意するための「ダメ」でしたか。それとも、よく考え、勇気を出して自分の気持ちを伝えるための「ダメ」でしたか。</p>

【引き出したい児童の反応】

- ・ダメっていえるようになった。
- ・初めは勇気がなかったけど、最後には勇気のある人になった。
- ・怖い気持ちや自分の弱い心に負けなかった。
- ・自分の気持ちを、勇気を出して伝えられた。

【終末につなげるための問い返し例】

- ①「りすくん」は、勇気のある人でしたか。また、それはなぜですか。

発問3 授業を受けて、勇気のある人とはどんな人だと思いますか。

- ・心の強い人。
- ・怖くても自分の気持ちを伝えられる人。
- ・怖い気持ちに負けない人。
- ・自分も、りすくんみたいに嫌なことを嫌と伝えられるようになりたい。
- ・友達が困っているときに勇気を出して助けたい。
- ・苦手だな、怖いなど思っていることをあきらめずにやってみたい。
- ・恥ずかしくて挨拶や発表ができなかったけどやってみたい。

- ・自分自身と向き合い、「こうした方がよい」と自分で決めたことに対し、勇気を出して行動に移すことは、自分自身をよりよく高めることができるという学習であったことをまとめる。
- ・「こうした方がよい」と思っているが、今まで勇気がなくてなかなか行動に移せなかったことを引き出したい。
- ・道徳ノートに書かせてまとめさせる。
- ・まとめたものを発表させ、共有させる。

6 板書計画

9がつ28にち 「ダメ」

ゆうきのあるひと

- ・つよいひと
- ・わるものをたおせる
- ・たたかいかてる
- ・よわいひとをまもることができる。
- ・スーパーヒーロー

りすくんは、なぜ「ダメ」といえるようになったのでしょうか。

ゆうきのあるひと

- ・つよいところ
- ・こわいきもちにまけない
- ・じぶんのきもちをつたえられる。

